

第57回水の都ひろしま推進協議会【議事録（要旨）】

- I 日 時 令和7年（2025年）6月3日（火）15:00～16:45
- II 場 所 広島市男女共同参画推進センター 5階 研修室2、3（ゆいぽーと）
- III 出席委員 別紙のとおり
- IV 議事概要

報告事項(1)

広島都心会議の活動報告について

（説明者：広島電鉄株式会社地域共創本部地域共創事業部地域交流事業課）

報告事項(2)

夜間景観の形成に関する取組について

（説明者：広島市役所 都市整備局都市計画課 都市デザイン担当）

《水頭委員》

先ほど、広島都心会議から水辺と町をつなぐ回遊のネットワークの観点から、京橋川でライトアップの社会実験を行ったと報告をいただいたが、アンケート結果を見ると、日常的な使われ方が多く、安全・安心に関する意見が多くある。このような場所で安全・安心が確保され人流ができれば回遊にもつながる。このような取組を新たに実施することがあれば、ぜひ、報告いただきたい。

また、広島市では、社会実験を実施しながら夜間景観に関する指針を策定するとの話をいただいたが、京橋川の管理者は広島県であるため、社会実験の実施にあたり、申請上の課題等があれば相談いただき、連携しながら進めていきたいと考えている。

《岡村委員》

広島都心会議が実施された夜間のライトアップの社会実験と、今後、広島市が夜間景観実態調査を踏まえた市内複数個所での社会実験を予定しているとのことだが、両者で連携等は予定されているのか。

《都市計画課》

京橋川周辺については、このたびの都心会議の取組を踏まえて連携していきたいと考えている。

また、本市の取組は、京橋川以外のエリアにも目を向けて、市全体の景観形成に取り組んでいくことになるため、その他の関係部門の方々の意見も聞きながらやっていきたいと思う。

《岡村委員》

夜間景観の社会実験は川辺以外でもあるのか、また、川辺以外ではどのようなイメージか。

《都市計画課》

昨年度の実態調査の結果から、平和記念公園が暗いことや、ライトアップすれば魅力が高まる建造物があることなど、課題がいくつか確認できたので、そういったエリアを複数箇所抽出していきたいと考えている。

《山田委員》

広島都心会議の資料P18の質問11について、「他の川沿いでも同じようなライティングがあると良いと思いますか」について、約4分の1が「いいえ」「どちらとも言えない」との回答である。

防犯や観光の面でもメリットがあるように感じるが、躊躇される意見もあるとのこと、どこの川沿いでライティングが重視されるか等、一步踏み込んだ質問はされているのか。

《広島都心会議》

どこの川沿いで実施すればよいか等は、アンケートの項目に入っていない。ライティングの仕方も含め、歩行者にとってどのようなものが歩きやすい空間となるか等は、更なる取組を通じて、ヒアリングをしていきたい。

《山田委員》

反対意見はとても貴重だと思う。ライティング自体を反対されている意見は、その理由を確認すべきだと思う。

《広島都心会議》

反対意見の理由としては眩しいという意見があり、そのあたりは今後ライティングの仕方を含めて考えていきたい。社会実験の評価としてあまり良くないと思われた方は、当該質問でもあまり良い回答は得られていないと思うため、相関関係は把握できると思う。

《西名会長》

広島都心会議の資料について、11月の一か月間について社会実験をしたとのことだが、費用面ではどのように工面されているのか。

《広島都心会議》

都心会議の活動に収益を生むものはないが、正会員は1社30万円の会費となっている。その他、市や県、国の補助金を活用しながらこのような活動をしている。多くは実施できないが、一つずつを着実に実施し、いずれかは自走を目指したい。

《西名会長》

京橋川のライトアップの社会実験について、以前からこの辺りは暗いとの話はある。

なぜ、今頃になって社会実験をやろうとなったのか。照明を増やすことも考えられるが、取組が難しい等の制約条件等はあるのか。

《広島都心会議》

都心会議の議論の中で、都心の課題としてあがったこともあり実施した。

また、以前、今回の実施場所の北側で別の社会実験を行った際に、参加された方からは南側（今回の実施場所）が暗いという声が多くあり、まずは都心会議が活動してアンケートを取った。社会実験を実施してみて、特段の制約もなかったため、もっと早期に実現できていればと思う。今後は常設化等の検討を含めて、国、県、市とも話をしていきたい。

《西名会長》

アンケートは何名から回答をいただいたのか。どの程度の母数から結果を得ているのかを示していただくほうが、よいと感じた。

《広島都心会議》

全体では約40人。もう少し多くとれるよう、次回の課題としてやっていきたい。

《西名会長》

夜間景観形成に関する取組について、令和6年度に実態調査を実施したとのこと、調査の報告書はないのか。

《都市計画課》

業務の成果として当然報告書はあるが、これから景観審議会に諮問していく予定のため、まだ公表していない。資料がオープンにできるようになれば、情報提供する。

《西名会長》

総じて水辺をどうするかについて当協議会では話している。水の都ひろしま推進計画も策定しているため、こちらも参照いただきながら、整合性をとって、活動いただきたい。

また、都心会議や景観審議会との情報提供についても、頻繁にご案内いただきたい。推進協議会で協力できることは協力し、うまく連携を図っていきたいと考える。

《都市計画課》

過去の水の都ひろしま推進協議会の資料把握やこちらからの資料提供も含めて、連携を図っていきたい。

審議事項

令和6年度事業報告及び収支決算報告について

《岡村委員》

水辺のオープンカフェの利用者数について、令和5年度から減少しているところ、例えば京橋川左岸は令和4年度から減少傾向にある。また、同様に地先利用型も減少傾向ではあるが、変動要因はどのような理由があるのか。

また、全体の取組について、基本的には出店者からの事業協賛金で事業を運営していると思うが、例えば広島スタジアムパークでは、バーベキューやSUPの実施等、民間の取組も新しく生まれている。

直接は水の都ひろしま推進協議会の収支には関係ないが、水辺のにぎわいづくりの観点からも民間主導の取組も促進していくことが重要となってくると思うが、このような新しい取組状況の把握はされているか。

《事務局》

水辺のオープンカフェの利用者数の減少について、独立店舗型左岸と地先利用型が昨年度と比較し減少している。

こちらについて、店舗事業者を確認したところ、令和6年度からは、これまで実施していた平日のディナー営業やランチ営業の時間短縮等に伴い利用者数が減少したと聞いている。

また、他の例では、入居建物内の会議室の利用者数が減少したことに伴い、店舗の利用者数が減少したと聞いている。

次に、民間の取組について把握していない部分もあるが、先ほどご紹介いただいた、広島都心会議様の取組などに、広くアンテナを広げ、例えば、連携したイベントの実施について、推進協議会の資料に記載し報告する等、民間事業者と連携して取り組んでいきたいと考えている。

《佐々木委員》

インバウンドの対応や対策について、現在、インバウンドで多くの客が入っている。外国人が多く並んでいる店は外国人向けではあるが、そのような店は努力が見える。

広島に観光客が増えている中、根本的な川の活用、昼は難しいとは思いますが、夜はライトアップ等の方法により、広島駅から流川等、広島の回遊性を向上するための取組があってもよいと感じた。

《西名会長》

京橋でイルミネーションを実施しており、店舗まわりでのライトアップだけでなく、先ほど説明があった社会実験との連携や、やはり、水辺の散歩道のような位置づけとなると、イルミネーションの範囲を広げることも検討できるのではないかと感じた。広島都心会議や市の景観部署とも協力・相談しながら、できればよいと感じた。

アンケートの結果と同じように、水辺の様々なイベントについても参加者がどのように感じているのか等の意見を吸い上げることで、取組を考えていく指標になると感じた。

《山本委員》

前年度に計画を審議し、新年度には報告を受けるとなると、事業が始まる前から報告までの間が空いてしまう。この度の報告では、何か新しい取組を実施したかと思った。

可能であれば、本日のような活動報告等は計画を立てる前に行ってほしいと感じた。

先ほども話があったが、収入をオープンカフェの出店者からの協賛金に頼り切っている印象がある。

性格上、そのようなことになっていると思うが、ダイナミックなイベントを展開できるかとの話で、繰越金はあるが潤沢ではない。

毎年、この規模で守っていくというのが、あまりにもルーティンであり形骸化されている。計画をたてる時も話をしたと思うが、いつも報告と計画で、今年度は新しい取組をしたのかということ、私自身も反省はあるが、いつも、この程度かなという感じで、所感を述べさせていただいた。

《西名会長》

確かにそのような印象はある。私自身からも提案を行ったり、機会があれば申し上げていきたい。

— 原案のとおり承認 —

その他

京橋川オープンカフェ（右岸）の公募について

《正本委員》

サウンディング調査を実施し、それでも最終的に公募の応募がない場合、その後も飲食に限ってオープンカフェの事業をやっていくのか。

水辺のにぎわいづくりは、当初から飲食という形態で始まっていると思うが。

《事務局》

現時点では、調査結果がない中で、具体的な検討は内部で図ってはいないが、発端はオープンカフェというスキームで実施しているため、その基本は継続できたらと考えている。

《西名会長》

調査の回答期限は6月6日となっているが、現時点で何件か回答はあったのか。

《事務局》

本日の午前中時点で集計したところ、3件の回答であった。

設問としては16ほどあるが、その中で公募に応募しなかった理由等を聞いている。

これまで、主な意見としては、物価高等で建築費が高騰しているとの意見があった。前

回2回公募したところは更地となっているため、新築で建てる必要がある。

あとは、契約期間について30年以上を希望される意見もあった。なお、従来は10年としていたが、現在は最大20年間の契約期間とできるよう条件を緩和している。

《西名会長》

広く意見をいただいて、これまでのやり方を踏襲ではなく、アイデアを取り入れ、空き地の活用について、私どもの責任も含めて考えていく必要があると思う。

《岡村委員》

建築費が高騰とあるが、どうしても建物を建設する必要があるのか。例えばキッチンカーやコンテナを置いて営業してよいとか、建物を建設する必要があるのかが疑問であり、それを緩和する形で、使用を認めるのも一つの案かと思った。

《事務局》

当初は建築種別を鉄骨造としていたものから、その条件を緩和している。

事業者からの意見を踏まえ、建物の構造等含めて内部で検討して、推進協議会等に諮りたいと考えている。

《柏木委員》

サウンディング調査は何社を対象にしているのか。

《事務局》

調査の対象として、広島市中小企業支援センターに協力いただき、「創業チャレンジ・ベンチャー支援事業」の認定事業者、その内の飲食事業者約40事業者に周知しているほか、広島県飲食業生活衛生同業組合にも協力いただき、約2,100事業者に周知している。

その他、京橋川オープンカフェに係る直近2回の公募の際に問い合わせのあった6事業者、現在の京橋川オープンカフェの出店者で独立店舗型の4事業者を対象としている。

《西名会長》

サウンディング調査の結果はまとまったら提供いただきたい。

《山本委員》

現在、調査中であるとのことで、早急には建設できない。水辺のにぎわいを目的にしている中、空き地となっている今の状況は、まわりの事業者にも影響がある。

建設前に、空き地を活用して何かをやっていく必要があるため、その方向性を早急に示していただきたい。今年の秋や冬を目途に実施しないと、他の店の事業者に示しがつかないと思う。

以前から申し上げているが、クリスマスマーケットの話や、かわいい小屋（ヒュッテ）、土日限定でもよいから、スタートアップ企業の誘致等、行政もフレキシブルに対応いただき、速やかに何かを考えていく必要があると思う。とにかく何か進めていただきたい。

《橋村委員》

岡村委員が言われたオープンカフェの利用者数の話ではあるが、オープンカフェの右岸と左岸で利用者数の差がある。おそらく空き地部分は場所自体が魅力的ではないと感じる。

まずは、空き地にキッチンカーを入れるでもいいし、ちょっとした土地の活用をいただける方に声掛けを行いながら、土地を活用される方に対し、意見の聞き取りをすることもよいと思う。

その他

《清家委員》

報告資料には地元の方に関する記載がありません。広島都心会議の14ページには居住地の記載において、近隣の方は青で示されているが、全体的にはあまり見られない。

地元の方と調整とはあるが文言があまり出てきていない。資料1の4ページ(4)には、苗を提供したとかはあるが。

岡村委員からは民間事業者による新規事業の話、佐々木委員からはインバウンドの話があった。地元の祭りと連携（秋祭りとの連携）とか、地元の人を会場に呼び込むような、地域全体で盛り上がる方向で実施いただき、その内容を資料にも記載いただければと思う。

《西名会長》

地域が主体的に関与することが、これからの地域づくりに重要である。そのような活動の一環で水辺のオープンカフェや推進協議会の活動が見込まれるため、地域との連携についても考えていかないといけないと感じた。

《佐々木委員》

今週末にとうかさんが控えているため準備しているところである。

先ほどの回遊性の話ではあるが、ゆかたまつりには何十万の来客がある。資料があれば会場でお渡しすることができるため、連携可能である。

私は、水の都ひろしま推進協議会の立ち上がりである第1回から参加しており、これまで建物の関係で、屋台を持ってくるといった話もあった。

全国をみると、博多には屋台の専門業者がいる。近くでは呉の屋台があり何十年も継続している。呉は歩道を活用しており、当初からインフラ整備も整っていたため開始しやすかったと聞いている。保健所との関係でも制約があるため、行政と連携し様々な形で条件緩和することが必要であると思う。

出席委員

分野	所属	役職	氏名	出欠	備考
有識者	広島大学大学院	教授	西名 大作	○	会長
	比治山大学	教授	山田 知子	○	
	近畿大学	教授	市川 尚紀	×	
市民 団体等	ポップラ・ペア レンツ・クラブ	幹事	正本 大	○	
	京橋川かいわい あしがるクラブ	代表	山本 恵由美	○	副会長
	広島市内水面漁業 協同組合	代表理事組合長	鈴木 修治	×	
経済・ 観光等	(一社)広島県観光 連盟	専務理事	岡村 清	○	
	(一社)広島県生活 衛生同業組合 連合会	会長	佐々木 克己	○	
	(一社)日本旅行業 協会中四国事務局	事務局長	橋村 秀樹	○	
行政	国土交通省	中国地方整備局 企画部広域計画課長	清家 貴之	○	
		中国運輸局観光部 観光地域振興課長	柏木 実	○	
	広島県	土木建築局 河川課長	水頭 顕治	○	
	広島市	経済観光局 観光政策部長	澄川 宏	○	